

中期経営計画における経営目標・経営指標の進捗状況

| 法人名等 | | 目標の内容・実績 | | | |
|-----------------------------------|-----------|---|---|---|--|
| 【法人名】 株式会社さいたまアリーナ | 目標 | 幅広いお客様に感動と満足を感じていただける魅力あるイベントを提供することで、施設価値の向上、高稼働率の維持と利用料金収入の増加を目指す。 | 安心・安全で快適な施設であり続けるため、施設の点検・修繕を確実に実施し、利用者の安全確保に万全を期すとともに、施設の魅力を維持・向上するためのバリエーションアップに努める。 | さいたま新都心のにぎわい創出を推進することで、魅力あるまちづくりに貢献するとともに、埼玉県の一翼を担う魅力発信の大きな原動力となる。 | |
| | | 稼働率: 80.0%以上 | 利用料金収入: 2,400,000千円以上 | 施設を起因とするイベントの開催に影響を与える重大な事故の発生: 0件 | さいたまスーパーアリーナ・けやきひろば・TOIROへの来場者数: 年間500万人以上 |
| 【中期経営計画の期間】 令和元年度～令和5年度 | 各年度の実績 | 【令和元年度実績】 77.0% | 【令和元年度実績】 2,707,588千円 | 【令和元年度実績】 0件 | 【令和元年度実績】 約567万人 |
| | | 【令和2年度実績】 26.0% | 【令和2年度実績】 506,806千円 | 【令和2年度実績】 0件 | 【令和2年度実績】 約60万人 |
| | | 【令和3年度実績】 68.5% | 【令和3年度実績】 2,192,202千円 | 【令和3年度実績】 0件 | 【令和3年度実績】 約177万人 |
| | 法人による自己評価 | <p>令和3年度は、令和2年度に続いてコロナ禍での施設運営となり、目標の稼働率・利用料金収入には届かなかったが、社会的にも感染症対策と経済の両立を求める流れの中で、如何にしてイベントを安全に開催することができるかを主催者と共に熟考し、1つ1つ実績を重ねてきた。</p> <p>イベントの中止や延期、モード変更など売上のマイナス要素もあった中ではあったが、多彩且つ注目度の高い、そしてバランスの取れたイベントを誘致でき、且つ安心安全な貸館運営ができたことと総括する。</p> <p>具体的には、新型インフルエンザ等対策特別措置法(以下、「法」という。)第24条第9項に基づく埼玉県知事からの要請により、4月のまん延防止等重点措置の実施以降9月30日に緊急事態宣言が解除されるまで、5,000人以下の人数制限のもとでの運営となった。1年延期して開催された東京2020オリンピックのバスケットボール競技も残念ながら無観客での開催となったが、日本女子チームが銀メダル獲得の快挙を達成し、日本中に感動を届けることとなった。</p> <p>緊急事態宣言解除後の10月以降は、段階的に人数制限が緩和され、年末には安全計画作成を条件に人数制限がなくなり、12月の全日本フィギュアスケート選手権大会は羽生結弦選手のクアッドアクセル挑戦で大きな注目を集めた。そのほか、年明け以降は2万人規模の音楽コンサートも複数回開催されるなど、稼働率と利用料金もコロナ禍前に戻りつつある。</p> <p>今後も引き続き、感染防止対策の徹底を第一に、その時々状況に迅速かつ柔軟に対応し、施設の利用促進による収入確保に努めてまいりたい。</p> | <p>さいたまスーパーアリーナは、開業から20年が経過し老朽化は進行しているが、日常点検等での不具合の早期発見と、必要な調査や修繕を的確に行っている。また、イベントの設営や撤去、施設の修繕工事における作業者の安全管理を徹底し、施設を起因とする重大事故の発生はゼロを維持している。</p> <p>新型コロナウイルス感染防止対策についても、国や県の基準・要請に沿って主催者と連携して取り組み、人数制限が段階的に緩和された年度後半以降は感染防止安全計画に基づく施設運営を実施し、施設としてCAPA上限の規模のお客様を安心安全に迎え入れる体制やノウハウを確立することができた。</p> <p>けやきひろば飲食店等の商業施設においても、感染防止対策を第一に営業を行い、イベントや商業施設でのクラスターを1度も発生させずにお客様を迎えることができた。</p> | <p>令和3年度もイベント人数制限が続く中、イベント開催状況は前年度から改善した。さいたまスーパーアリーナの前年度はコロナ禍前の1/3程度の約104万人にとどまったが、令和2年度比では418%と大幅に改善した。</p> <p>けやきひろばにおいては、昨年度に続いて春の「ビール祭り」、夏の「水かけまつり & ワールドフェスタ」、冬のクリスマスマーケットや大道芸をはじめ多くの自主企画事業の開催を見合わせることで、密を避けて多くの来場者を迎えられるイルミネーションは例年ペースのスケジュールで実施した。年明けには感染症対策に留意してさつまいも博を開催するなど、来場者数は約71万人と、こちらもコロナ禍前の1/3程度ではあるが、令和2年度比では213%と大幅に改善した。</p> <p>今後も感染症対策に十分配慮したイベント開催の実績を積み重ね、安心安全を確保したにぎわいづくりについて引き続き工夫してまいりたい。</p> | |